

- ✓ 近年、7月～10月は真夏日（30℃以上）、日照時間が増加している。
- ✓ 降雨量は維持されたまま、降雨日数が減少している。

考察

→これらの影響は、植物の成長メカニズムから、雑草に次の変化をもたらしていると推定できる。

- ・夏季における雑草の成長が加速化している。
- ・雑草の生育期間が長期化している。
- ・多年草が増加している。（地下茎や根が発達し土壌中に残る。）

【現象面での裏付け】この雑草の変化について、8月～12月の雑草の繁茂の状況に、否定できる事象は見当たらないため、妥当すると考えられる。

IV 市民のこえ (1) 要望件数と内容の例示

32

- ✓ 道路・河川・公園ともに、雑草に関する要望件数は増加している。

[件数]

	R 5 年度	R 6 年度
道路	2, 2 6 2	2, 6 5 4
河川	3 5 9	4 6 5
公園	2 4 8	2 2 4

日付	内容
R6.8.20	異常気候なのか、最近、街中での雑草が目立つ。 世界で、いい街だなと思えるところは、どこも緑化整備が進んでいる。 生活空間や、都市の緑化を後退させないでほしい。
R6.9.9	街中は草がぼうぼうで、景観を損ねているだけでなく、歩道等を占領しポイ捨ても助長している。 除草費はただの草刈り費用ではなく、景観などすべてにかかわる必要経費である。
R7.9.15	街中の道路の雑草が伸び放題でとても汚い。車道に出るときも見えにくくて危ない。 前は定期的に刈られていたようだが、最近は草が生い茂っていて街全体が汚く見える。
R7.9.23	道路や公園の草が生えすぎて虫が多く、子供たちが安心して遊べない。 車を運転していても草が邪魔。草刈りはどれくらいの頻度で行われているのか。

IV 市民のこえ (2) 市民のこえの分析

✓ 要望内容进行分析すると、大まかに6つのカテゴリーで整理される。

- A 安全・安心
- B 景観・美観・イメージ
- C 緑化・環境（コンクリート化／緑の質）
- D 予算・優先順位（行財政への意見）
- E 管理水準・作業頻度・方法
- F 地域間の公平性

考察 → 除草は「安全」「景観」「環境」「財政」の複合課題である。

※単なる清掃業務ではない。

→ C o化と緑化の按配が、住民による価値観の違いとして表面化している。

→ 頻度・エリア配分・情報提供など「運用レベルの工夫」を求める声が多い。

【定 義】 有用植物の生育を妨げる「雑草」を除去する作業を指す

■目 的

- 施設の機能維持や景観を阻害し、病虫害の発生源にもなる雑草を取り除く
- 有用植物（作物、庭木、観賞植物など）の生育環境を確保し、栄養分、水分、光などの資源の競合を避ける

■対 象

- 一般的に、人間にとって価値のない、あるいは有害であると認識される植物
- 場所や状況によって、「雑草」の定義は変わり得る
(例：畑では雑草でも、山では有用な野草となることもある)

■主な方法

- 手作業 … 手で引き抜く、草刈り鎌を使用する など
- 機械作業 … 草刈り機、除草機 など
- 化学的除草 … 除草剤の使用 など
- 物理的除草 … 熱による除草 など

✓ 道路・河川・公園 除草面積の合計 約863万 m^2

→北九州市の全域面積の2%にも満たないものの。。

→みずほPayPayドーム福岡に換算すると約123個分 ※建築面積：7万 m^2 で試算



× 123

V 除草の情報 (2) 面積

2. 道路

36

✓ 道路 除草面積 約 196万㎡

中央分離帯 約 18.5万㎡

植樹帯・植樹柵 約 48.1万㎡

道路のり面 約 106.6万㎡

残地・その他 約 22.6万㎡

植樹帯・植樹柵



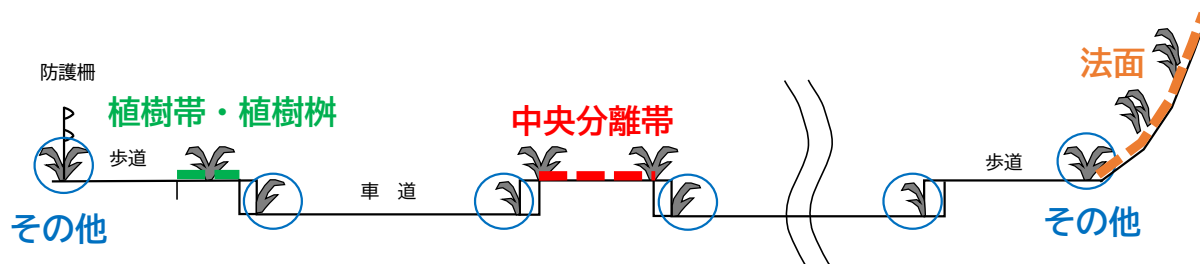
法面



中央分離帯



その他



V 除草の情報 (2) 面積

3. 河川

37

✓ 河川 除草面積 約 61万㎡

河床・河道 約 14.1万㎡

護岸 約 7.3万㎡

のり面 約 21.4万㎡

河川管理道 約 9.8万㎡

親水広場 約 3.7万㎡

河川外水路 約 3.1万㎡

その他 約 1.8万㎡

河床・河道



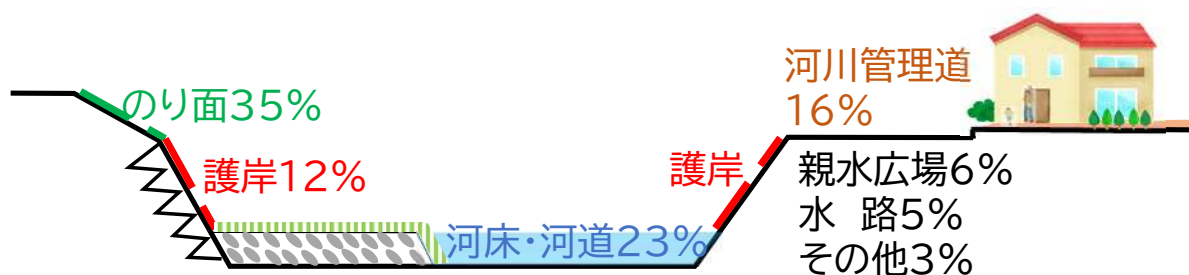
親水広場



のり面



河川管理道



V 除草の情報 (2) 面積

4. 公園

38

✓ 公園 除草面積 約606万㎡

公園 約558.1万㎡

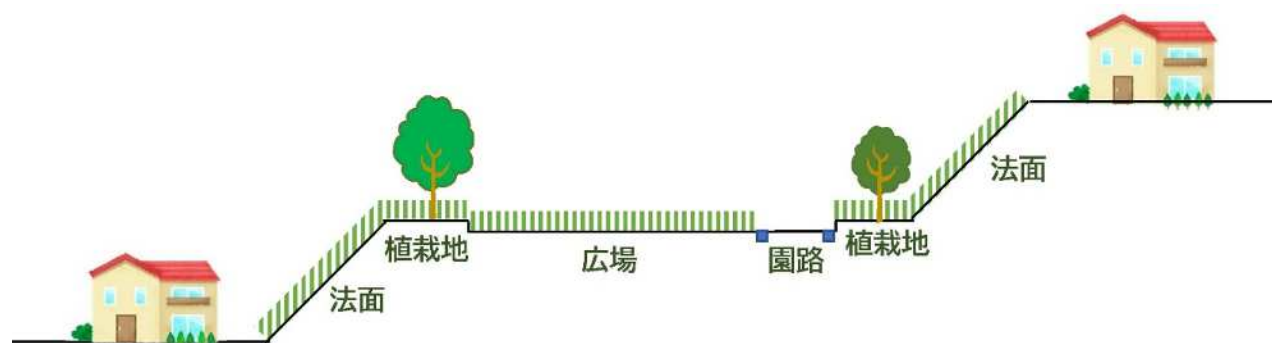
霊園 約42.8万㎡

その他 約5.2万㎡

公園



霊園



V 除草の情報 (3) 考え方

✓ 定期的な除草と臨時的な除草を実施している。

✓ 施設ごとの考え方は、以下のとおり。

道路：（定期）毎年、雑草が繁茂するのり面等を定期的に行う

（臨時）安全パトロールや市民要望に基づき、安全面で配慮が必要な場所について臨時的に行う

河川：（定期）必要最小限の自然への働きかけとして、河床・河道、のり面等を定期的に行う

（臨時）住環境や景観に配慮が必要な箇所もしくは親水広場など市民要望が多い箇所について、臨時的に行う

公園：（定期）公園愛護会の活動範囲外

（臨時）公園愛護会が解散により管理できなくなった箇所等について臨時的に行う

V 除草の情報 (4) 回数と時期

- ✓ 道路では、植樹のある中央分離帯や植樹帯については年2回、のり面などその他は年1回。
- ✓ 河川では、年1回を原則としつつ、特に治水、景観・利用に配慮が必要な箇所は、回数を増やす。
- ✓ 公園では、年2回。

【道路】回数・時期			【河川】回数・時期		【公園】回数・時期	
種別	除草回数	除草時期	除草回数	除草時期	除草回数	除草時期
中分・植樹	2	①7～8月、②10～11月	1	8～9月	2	①6～7月、②10～11月
法面ほか	1	7～8月				

考察 → 中央分離帯・植樹・公園においては、交通安全や治安維持に波及するため、年2回の除草を実施しているものの、雑草の生育が速いため、それでも十分な状態でない。